

展示構成

本展示は未来像について3つのセクションに分け構成した。各々のセクションコンセプトは以下の通りである。セクション3の未来像のテーマに関しては、事前には公開せず、展示のオープンに合わせて「ポストヒューマン」というテーマを示し展開した。

セクション1：進歩史観的／衛生的な未来像

直線的な進歩史観と、超音速・宇宙開拓・マザーコンピュータ・巨大都市計画管理社会などの中央集権的な技術観に特徴付けられる、1970年大阪万博によって当時に幅広く共有された未来像。

セクション2：ポスト進歩史観的／退廃的な未来像

オイルショックとベトナム戦争以降、進歩史観や国家の威信は失墜し、パーソナルコンピュータが身近になりました。そのような時代を背景とする、サイバネティクス、アジア的都市、コマーシャルスティックな多国籍企業の台頭、国家をおびやかすハッカーなどに特徴付けられる、ハリウッド映画やマンガ・アニメなどを通じて一般に親しまれた未来像。

セクション3：新たな未来像

超大国間の第三次世界大戦のリアリティが後退し、ノストラダムスの予言が的中しないまま、われわれは21世紀の日常を生きています。初音ミクやツイッターのある日常。そんな現在に生きる今、SFはどのような〈未来〉を描くのか。現在のSFの試みを紹介。

展示期間

2013年9月1日(日)～2013年9月29日(日)

休館日：会期中無休

開館時間：10:00～17:00

会場：明治大学博物館 特別展示室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン地階

Tel: 03-3296-4448

◎臨時休館となる場合があります。当館サイトで確認されるか、開館日に電話などでお問い合わせください。

関連展示

■小松左京「日本沈没」-未来へのヴィジョン-展

会場：米沢嘉博記念図書館 1F 展示室

展示期間：6月7日(金)～10月6日(日)

休館日：毎週火・水・木曜(ただし祝日の場合は開館)

開館時間：平日 14:00～20:00 / 土・日・祝日 12:00～18:00

◎臨時休館となる場合があります。当館サイトで確認されるか、開館日に電話などでお問い合わせください。

明治大学博物館 特別展示室

SF と未来展

展示品リスト

展示期間

2013年9月1日(日)～2013年9月29日(日)

主催

日本SF作家クラブ
明治大学 米沢嘉博記念図書館

日本では戦後、海外のSFの潮流を吸収し、さまざまな社会変化を背景にしながら、独特の空想科学的な作品群を、小説・マンガ・アニメ・特撮などの分野で産み出してきました。本展は2013年に50周年を迎える日本SF作家クラブと、明治大学の米沢嘉博記念図書館との共催により、SFと社会的に流布されてきた未来像との相関に焦点を合わせ、その時代ごとの変遷と、これから造られる現実の未来へのヴィジョンを、原画などにより展示いたします。みなさまの未来への想像力を刺激するとともに、フィクションと現実との関係に、多角的な視点を提供できれば幸いです。

セクション1：進歩史観的／衛生的な未来像

科学の進歩は人類を幸せにすると考えられていました。

ライト兄弟が世界初の飛行機による本格的な有人飛行を行ったのが1903年のこと。滞空飛行はわずかに59秒でした。

それが1957年には世界初の人工衛星・スプートニク1号が宇宙に向けて飛び立ち、1969年にはアポロ11号が人類初の月面到達を果たします。

人類による宇宙への進出はもはや夢ではないという時代を迎えるようになります。

飛行機だけを見てもライト兄弟の初飛行からわずか66年の期間に科学は目覚ましい進歩を遂げたのです。

「科学の進歩は人類を幸福にする」そう考えられるようになるのは不思議なことではありませんでした。（大橋博之）

壁展示

カラーイラスト複製「宇宙コロニーⅡ」（小松崎茂，1980年）

空中都市008 関連グッズ10点（1969年～1970年代）

カラーイラスト原画（小松崎茂）

雑誌『たのしい四年生』（1991年1月号，講談社）

カラーイラスト原画「せかい・30ねんたったら」（伊藤展安，偕成社，1971年）より 5点

カラーイラスト原画（伊藤展安）

カラーイラスト原画（伊藤展安）

カラーイラスト原画「宇宙怪獣ゾーン」口絵（伊藤展安，バン=ボクト 著，偕成社，SF名作シリーズ5，1969年）

カラーイラスト原画「深海の宇宙怪獣」表紙（伊藤展安，スタージョン 著，偕成社，SF名作シリーズ13，1969年）

カラーイラスト原画「深海の宇宙怪獣」口絵（伊藤展安，スタージョン 著，偕成社，SF名作シリーズ13，1969年）

カラーイラスト原画「宇宙ガードマン」表紙（伊藤展安，ロックウェル 著，偕成社，SF名作シリーズ19，1969年）

カラーイラスト原画「宇宙パイロット37号」表紙（伊藤展安，エフレモフ 著，偕成社，SF名作シリーズ12，1968年）

カラーイラスト原画「宇宙家族ロビンソン」表紙（伊藤展安，アーナム/アーチャー 共著，SF名作シリーズ22，1971年）

書籍 SF名作シリーズ13『深海の宇宙怪獣』（スタージョン 著，福島正実 訳，偕成社，1967年）

書籍 SF名作シリーズ12『宇宙パイロット37号』（エフレモフ 著，飯田則和 訳，偕成社，1967年）

書籍 SF名作シリーズ22『宇宙家族ロビンソン』（アーナム/アーチャー 共著，福島正実 訳，偕成社，1967年）

書籍 SF名作シリーズ19『宇宙ガードマン』（ロックウェル 著，福島正実 訳，偕成社，1969年）

書籍 SF名作シリーズ5『宇宙怪獣ゾーン』（バン=ボクト 著，野田開作 訳，偕成社，1969年）

プラモデル「キングモグラス」（緑商会，1960年代）2008年 童友社復刻

プラモデル「ジュニアモグラス」（緑商会，1960年代）2008年 童友社復刻

プラモデル「ビッグモグラス」（緑商会，1960年代）

ブリキ玩具「ATOMIC ROBOT MAN」（1948年）

セル画「鉄腕アトム」（1963年）

雑誌『鉄腕アトム』ロボットの科学大特集号（手塚治虫，光文社，カッパコミックス，1965年）

ブリキ玩具「BUCK ROGERS ROCKET SHIP」（Louis Marx&Co.，1934年）

プラモデル「STAR TREK」（1966年）より「エンタープライズ号」1/350（Polor Lights，2013年）

カラーイラスト原画「さすらいのスターウルフ」表紙(斉藤和明, 早川書房, エドモンド・ハミルトン, ハヤカワSF文庫, 1970年)
カラーイラスト原画「さいはてのスターウルフ」表紙(斉藤和明, 早川書房, エドモンド・ハミルトン, ハヤカワSF文庫, 1971年)
カラーイラスト原画「望郷のスターウルフ」表紙(斉藤和明, 早川書房, エドモンド・ハミルトン, ハヤカワSF文庫, 1971年)
カラーイラスト原画「宇宙嵐のかなた」表紙(斉藤和明, 早川書房, A. E. ヴァン・ヴォクト 著, ハヤカワSF文庫, 1970年)
カラーイラスト原画「宇宙の果てを超えて」表紙(斉藤和明, 早川書房, レイ・カミングス, ハヤカワSF文庫, 1970年)
カラーイラスト原画「銀河大戦—星間パトロール」表紙(斉藤和明, 早川書房, エドモンド・ハミルトン, ハヤカワSF文庫, 1971年)
カラーイラスト原画「太陽強奪—星間パトロール」表紙(斉藤和明, 早川書房, エドモンド・ハミルトン, ハヤカワSF文庫, 1972年)
カラーイラスト原画「時間を征服した男」表紙(斉藤和明, 早川書房, レイ・カミングス, ハヤカワSF文庫, 1972年)
書籍『さすらいのスターウルフ』(早川書房, エドモンド・ハミルトン, 斉藤和明 画, ハヤカワSF文庫, 1970年)
書籍『望郷のスターウルフ』(早川書房, エドモンド・ハミルトン, 斉藤和明 画, ハヤカワSF文庫, 1971年)
書籍『さいはてのスターウルフ』(早川書房, エドモンド・ハミルトン, 斉藤和明 画, ハヤカワSF文庫, 1971年)
書籍『宇宙嵐のかなた』(早川書房, A. E. ヴァン・ヴォクト 著, 斉藤和明 画, ハヤカワSF文庫, 1970年)
書籍『宇宙の果てを超えて』(早川書房, レイ・カミングス, 斉藤和明 画, ハヤカワSF文庫, 1970年)
書籍『時間を征服した男』(早川書房, レイ・カミングス, 斉藤和明 画, ハヤカワSF文庫, 1972年)
書籍『銀河大戦—星間パトロール』(早川書房, エドモンド・ハミルトン, 斉藤和明 画, ハヤカワSF文庫, 1971年)
書籍『太陽強奪—星間パトロール』(早川書房, エドモンド・ハミルトン, 斉藤和明 画, ハヤカワSF文庫, 1972年)
雑誌付録『赤い星』幼年クラブ二月号付録(谷川一彦, 講談社, 1980年)科学ぼうけんまんが
雑誌付録『宇宙少年X・ロボット兄弟』たのしい四年生四月号付録(講談社, 1958年)科学まんが
雑誌付録『大空のぼうけん』たのしい四年生七月号付録(板井れんたろう, 講談社, 1958年)科学冒険
プラスチック玩具「レイガン」(光線銃)7点(吉屋製品)

カラーイラスト原画『SF マガジン』表紙より8点(角田純男, 早川書房,

1973年1月号, 1973年7月号, 1973年9月号, 1974年3月号, 1974年4月号, 1974年6月号, 1974年8月号, 1975年1月号)

『SF マガジン』50冊

のぞき込みケース：セクション1 関連書籍

SF のもつ機能・特色の一つに、未来を予見してみせるというものがあります。

もしかすると起こりうるかもしれない未来の可能性を、SF 作家たちは、その想像力を駆使して描き出してみせたのです。

1960 年代から 70 年代にかけて発表された作品の中には、まさに薔薇色の未来世界を予見するものもありましたし、その反対に人類が直面するであろう様々な危機を描き出したものもあります。科学技術の進歩を享受した理想の世界。

暗黒の管理社会。地球を離れ、宇宙に活路を求めた人類の姿。未曾有の危機に直面し絶滅の危機に瀕した人類。

さらにテクノロジーの進歩は人間とロボットの関係にも迫ります。医療工学の進歩は、やがてサイボーグを生み出すかもしれません。

このコーナーでは、そんなSF 作品をいくつか紹介したいと思います。（星敬）

■希望に満ちた未来世界

書籍『ラルフ 124C41+』（ヒューゴー・ガーンズバック 著、早川書房、ハヤカワ SF シリーズ、1966 年）

書籍『海底牧場』（アーサー・C・クラーク 著、早川書房、ハヤカワ文庫 SF、1977 年）

■新たなるフロンティアを求めて宇宙へ

書籍『2001 年宇宙の旅』（アーサー・C・クラーク 著、早川書房、ハヤカワ文庫 SF、1977 年）

書籍『楽園の泉』（アーサー・C・クラーク 著、早川書房、海外 SF ノヴェルズ、1980 年）

書籍『落陽 2217 年』（光瀬竜 著、早川書房、ハヤカワ SF シリーズ、1975 年）

書籍『カナン 5100 年』（光瀬竜 著、早川書房、ハヤカワ SF シリーズ、1978 年）

書籍『STAR TREK 宇宙大作戦：危険な過去への旅』（辰巳出版、1980 年）

書籍『第六大陸 I』（小川一水 著、早川書房、ハヤカワ文庫 JA、2003 年）

■危機に瀕した未来世界 デイストピア SF

書籍『人間がいっぱい』（ハリィ・ハリスン 著、早川書房、ハヤカワ SF シリーズ、1973 年）

書籍『時計仕掛けのオレンジ』（アンソニー・バージェス 著、早川書房、ハヤカワ文庫 NV、1977 年）

■人間の友達？ロボット

書籍『ロボット (R・U・R)』（カレル・チャペック 著、岩波書店、岩波文庫 1989 年）

書籍『われはロボット』（アイザック・アシモフ 著、ハヤカワ文庫 SF、1983 年）

書籍『鉄腕アトム』（手塚治虫 著、朝日ソノラマ、サンコミックス、1975 年）

書籍『鉄人 28 号』（横山光輝 著、光文社、『少年』1959 年 4 月号付録、1959 年）

書籍『機龍警察』（月村了衛 著、早川書房、ハヤカワ文庫 JA、2010 年）

■サイボーグ人体改造：医療技術

書籍『サイボーグ・ブルース』（平井和正 著、早川書房、HC、1971 年）

書籍『マン・プラス』（フレデリック・ポール 著、早川書房、ハヤカワ文庫 SF、1983）

書籍『サイボーグ 009』（石ノ森章太郎 著、秋田書店、SUNDAY COMICS、1966 年）

書籍『600 万ドルの男—謎のリモコン人間』（マイク・ヤーン 著、三笠書房、ミカサ・ノヴェルズ、1978 年）

セクション2：ポスト進歩史観的／退廃的な未来像

1960年代の宇宙開発競争を背景とするバラ色の未来像は、1969年の月面着陸、日本においては1970年の大阪万博でピークを迎えた後、急速に色褪せてしまいました。ベトナム戦争の泥沼化により宇宙開発はストップし、人類は月へ行かなくなり、オイルショックがこれに追い打ちをかけました。進歩史観や国家の威信とともに、中央集権的な技術観も失墜したのです。代わってヒッピーたちのガレージカンパニーがパーソナル・コンピュータを萌芽させ、マザーコンピュータが支配するような未来像も失効しました。そのような技術観の変化を受け、SF小説だけでなく、ハリウッド映画やマンガ・アニメなどでも、国家をおびやかすハッカー、無頼なエンジニア、サイバネティクス、酸性雨が降りしきるアジア的都市、コマーシャルスティックな多国籍企業、文明を自壊させるカタストロフなどによって特徴付けられる、退廃的な未来像が描かれるようになりました。（森川嘉一郎）

壁展示

ポスター「日本沈没」映画(原作 小松左京, 監督 森永司郎, 特技監督 中野昭慶, 1973年)

ポスター「ノストラダムスの大予言」映画(原作 五島勉, 監督 舛田利雄, 特技監督 中野昭慶, 1974年)

ポスター「BLADE RUNNER」映画(監督 リドリー・スコット, デザイン シド・ミード, 1982年, THE FINAL CUT, 2007年)

プロップレプリカ「STAR WARS」(1977年)より「ミレニアムファルコン号」(MASTER REPLICAS, 2008年)

ポスター「HARMAGEDON 幻魔大戦」アニメーション映画(監督 りん・たろう, 制作 マッドハウス, 1983年)

セル画「HARMAGEDON 幻魔大戦」アニメーション映画 cut1490(監督 りん・たろう, 制作 マッドハウス, 1983年)

セル画「天空の城ラピュタ」アニメーション映画 cut1435(監督 宮崎駿, 制作 スタジオジブリ, 1986年)

セル画, 背景画「装甲騎兵ボトムズ」テレビアニメーション 第45話 cut271(監督 高橋良輔, 制作 サンライズ, 1983年)

アニメーション映画「AKIRA」ポスター(監督 大友克洋, 制作 東京ムービー新社, 1988年)

書籍『AKIRA』(1)(大友克洋 著, 講談社, 講談社コミックスデラックス, 1984年)

1/6 模型「金田のバイク」(バンダイ, 2010年)

セル画 「AKIRA」アニメーション映画 cut1435, cut180(監督 大友克洋, 制作 東京ムービー新社, 1988年)

修正原画「AKIRA」大友克洋 直筆 アニメーション映画 cut1043(監督 大友克洋, 制作 東京ムービー新社, 1988年)

カラー原画「言葉使い師」表紙(早川書房, 神林 長平 著, 角田純男 画, ハヤカワ文庫JA, 1983年)

カラー原画「暗殺者の惑星」表紙(新潮社, マイク・レズニック 著, 角田純男 画, 新潮文庫, 1985年)

ポスター「GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊」アニメーション映画(監督 押井守, 制作 プロダクション I.G., 1995年)

書籍『攻殻機動隊』(土郎 正宗 著, 講談社, KC デラックス, 1991年)

レイアウト修正「GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊」cut486(制作 Production I.G, 監督 押井守, 1995年)

レイアウト「GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊」cut624(制作 Production I.G, 監督 押井守, 1995年)

背景画「GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊」タイラー400×495(制作 Production I.G, 監督 押井守, 1995年)

背景画「GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊」cut244, cut322, cut547, cut683, cut624, cut636, cut273, (制作 Production I.G, 監督 押井守, 1995年)

背景画「GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊」cut326 (book), cut112 (book) (制作 Production I.G, 監督 押井守, 1995年)

のぞき込みケース：セクション2 関連書籍

かつて、未来は「明るいもの」というイメージが大半でした。

科学技術が発達して生活は向上し、医療が進歩して人々は長生きし、みんなが豊かになって平和になり……。

しかし、必ずしもそうとは限らない、未来は暗いかもしれない、という考え方を、SFは早くから提示していました。

何か大きな自然災害や、大事故や、戦争や、病気の蔓延による恐ろしい未来が、我々を待っているかもしれないのです。

コンピュータも、進歩するにつれてその描かれ方が変わってきます。

現在のようなインターネット社会や、コンピュータ管理に、恐ろしい一面があることも。

一方で、流線型のロケットや列車のカッコ良さとはまた違った、アウトロー的なスタイリッシュさを持つ未来も描かれるようになりました。

正義感ではなく自分本位に活躍するハッカーが主人公であるような。

しかし逆にそのデザイン的な美は、我々の現実世界へも影響を及ぼすのです。 (北原尚彦)

■スタイリッシュな未来像

書籍『ブレードランナー』劇場パンフレット(1982年)

書籍『アンドロイドは電気羊の夢を見るか』(フィリップ・K・ディック 著, 早川書房, ハヤカワ文庫SF, 1977年)

■破滅と希望

書籍『渚にて』(ネヴィル・シュート 著, 文藝春秋新社, 1958年)

書籍『日本沈没』上・下(小松左京, 光文社, カッパノベルス, 1973年)

書籍『復活の日』(小松左京 著, 早川書房, ハヤカワ文庫JA, 1974年,)

書籍『霊長類南へ』(筒井康隆 著, 講談社, 1969年)

書籍『地球0年』(矢野徹 著, 早川書房, 早川文庫SF, 1973年)

■暗い未来=デストピア

書籍『1984年』(ジョージ・オーウェル 著, 早川書房, ハヤカワ文庫NV, 1972年)

書籍『ローガンの逃亡』(ウィリアム・F・ノーラン&ジョージ・C・ジョンソン 著, 角川書店, 角川文庫, 1972年)

書籍『にぎやかな未来』(筒井康隆 著, 角川書店, 角川文庫, 1972年)

書籍『図書館戦争』(有川浩 著, メディアワークス, 2006年)

■コンピュータと脳空間

書籍『コンピューター・コネクション』アルフレッド・ベスター 著, サンリオ, サンリオSF文庫, 1980年)

書籍『ニューロマンサー』(ウィリアム・ギブスン 著, 早川書房, ハヤカワ文庫SF, 1986年)

書籍『コンピューターが死んだ日』(石原藤夫 著, 早川書房, ハヤカワ文庫JA, 1976年)

書籍『声の網』(星新一 著, 講談社, 1970年)

書籍『京美ちゃんの家出《ミルキーピア物語》』(東野司 著, 早川書房, ハヤカワ文庫JA, 1989)

セクション3：ポストヒューマン

サイバーパンクにおける、「人間を生物学的、または機械的に拡張し、或いはネットワークに接続する」という概念は、ムーアの法則が言い当てたとおりの幾何級数的なコンピュータの能力の増大が現実起こったことと相まって、「おそらく、近い将来には、人を超えた存在が現れるであろう」という予感に結びついていきます。

この概念を、「ポストヒューマン」と呼びます。それは、人間の想像の全く及ばない、神のような存在です。

「シンギュラリティは近い (和訳タイトル：ポストヒューマンの誕生)」(※)の著者、

レイ・カーツワイル博士は、人間にとってのポストヒューマンは、バクテリアにとっての人間のようなものだ、と表現しています。

この概念こそ、90年代以降のSFの基調と言っても過言ではありません。

※ (The Singularity Is Near: When Humans Transcend Biology、

訳書：「ポスト・ヒューマン誕生 コンピューターが人類の知性を超えるとき」NHK出版、2007) (山口優)

壁展示

フィギュア「綾波レイ」(原型：BOME, 1996年)

ポスター「劇場版 涼宮ハルヒの消失」(総監督：石原立也 制作：京都アニメーション, 2010年)

フィギュア「長門有希」(原型：越沼真司, 2007年)

ポスター「初音ミク」キャラクター・ボーカル・シリーズ01(クリプトン・フューチャー・メディア, 2007年)

コンピュータソフト「初音ミク」キャラクター・ボーカル・シリーズ01(クリプトン・フューチャー・メディア, 2007年)

1/6 フィギュア「初音ミク」モエコレPLUS アンコールパッケージ(ボックス, 原型 ミルヒ・シュトラーク, 2010年)

1/8 フィギュア「初音ミク ミクダヨー」セガ製着ぐるみより(グッドスマイルカンパニー, 原型 白鷺いさお, 2013年)

「ニコニコ動画」投稿動画「Chaining Intention」初音ミクPV(PV：まさたかP, 作詞：NaturaLe, 作曲：Treow (逆衝動P), 2010年, 第4回MMD杯本選)

1/8 フィギュア「初音ミク ワールドイズマイン」(グッドスマイルカンパニー, supercell feat., 原型 石長櫻子, 2009年)

カラーイラスト「シンギュラリティ・コンクエスト」(廣岡政樹, 徳間書店, 2010年)

設定画「シンギュラリティ・コンクエスト」(廣岡政樹, 山口優 著, 徳間書店, 2010年)

カラーイラスト「Lacia_figure」(redjuice, 「Newtype」2011年2月号掲載)

カラーイラスト「Lacia_concept」(redjuice, 「Newtype」2011年4月号掲載)

フィギュア「Lacia」Introduction「BEATLESS」set 同梱品(原型：石長櫻子, 2011年)

ガラスパネル「Snowdrop」長谷川敏司著「BEATLESS」より(redjuice, 角川書店, 2011年)

イラスト「アルヴ・レズル—機械仕掛けの妖精たち—」(作画：土屋圭, 原作：山口優, 監督吉原達矢, 制作：ZEXCS, 2013年)

スチルフレーム「アルヴ・レズル—機械仕掛けの妖精たち—」(原作：山口優, 監督吉原達矢, 制作：ZEXCS, 2013年)

アニメーション「アルヴ・レズル—機械仕掛けの妖精たち—」(原作：山口優, 監督：吉原達矢, 制作：ZEXCS, 2013年)

のぞき込みケース：セクション3 関連書籍

SFは、今や〈人間〉を描きます。この社会では、情報社会と融合したポストヒューマン的感性や、アニメのキャラと人間を等価に感じるリアリティが浸透しつつあります。そこでは、虚構的な身体や、言葉を使える人工知能とともにある〈私たち〉の輪郭が、揺らいでいます。バイオテクノロジーや脳科学などで明らかになる新しい人間像や、様々な技術が応用され、実用化されていく中で人間を感じる慄きや実存的不安の感覚が、現代SFには現れています。そこでは、〈意識〉が消滅したり、人間を超えた人工知能と直面したり、二次元美少女が総理大臣を務めたり、ゾンビと共同生活をしたりします。かつて「人間が描けていない」と揶揄されたSFは、今やSF的な手法でしか描くことのできない、新たな〈人間〉を描く有効な手法となりました。（藤田直哉）

■キャラクターが導く未来

- 書籍『BEATLESS』（長谷敏司 著、角川書店、2012年）
- 書籍『南極点のピアピア動画』（野尻抱介 著、早川書房、ハヤカワ文庫JA、2012年）
- 書籍『スワロウテイル人工少女販売処』（籾真千歳 著、早川書房、ハヤカワ文庫JA、2010年）
- 書籍『カゲロウデイズ』（じん 著、エンターブレイン、KCG文庫、2012年）
- 書籍『ぼくの妹は漢字が読める』（かじいたかし 著、ホビージャパン、HJ文庫、2011年）
- 書籍『ヨハネスブルグの天使たち』（宮内悠介 著、早川書房、ハヤカワJコレクション、2013年）

■身体/言語感覚の変容

- 書籍『どろんころんど』（北野勇作 著、福音館書店、ポクラノエスエフ、2010年）
- 書籍『いま集合的無意識を、』（神林長平 著、早川書房、ハヤカワ文庫JA、2012年）
- 書籍『言語都市』（チャイナ・ミエヴィル 著、早川書房、新☆ハヤカワSFシリーズ、2013年）
- 書籍『ワールド・ウォー・Z』（マックス・ブルックス 著、文藝春秋、2010年）

■情報環境と人間

- 書籍『ハーモニー』（伊藤計劃 著、早川書房、ハヤカワJコレクション、2008年）
- 書籍『boy's surface』（円城塔 著、早川書房、ハヤカワJコレクション、2008年）
- 書籍『グラン・ヴァカンス』（飛浩隆 著、早川書房、ハヤカワJコレクション、2002年）

■バイオテクノロジーによる変容

- 書籍『ねじ巻き少女』上・下（パオロ・バチガルピ 著、早川書房、ハヤカワ文庫SF、2011年）
- 書籍『ストーンエイジCOP』（藤崎慎吾 著、光文社、カッパノベルス、2002年）
- 書籍『機械男』（マックス・バリー 著、文藝春秋、2013年）

■拡張現実化する世界

- 書籍『Gene mappaer』（藤井大洋 著、早川書房、ハヤカワ文庫JA、2013年）
- 書籍『know』（野崎まど 著、早川書房、ハヤカワ文庫JA、2013年）
- 書籍『この空のまもり』（芝村裕吏 著、早川書房、ハヤカワ文庫JA、2012年）

その他 床台座：SFの山（故・米沢嘉博氏所蔵のSF文庫・新書約1000冊によるオブジェ）